



平成20年8月7日

各位

上場会社名 昭和電工株式会社
コード番号 4004 東証第1部
代表者 取締役社長 高橋恭平
問合せ先 執行役員 IR・広報室長
佐藤勝信
TEL (03) 5470 - 3235

業績予想の修正に関するお知らせ

平成20年5月8日に公表した平成20年12月期中間業績予想を修正いたします。また、最近の原燃料価格の高騰等、経済情勢の動向を踏まえ、平成20年2月7日に公表した平成20年12月期通期業績予想を修正いたします。

記

I. 平成20年12月期 中間業績予想の修正

1. 平成20年12月期連結中間業績予想の修正(平成20年1月1日～平成20年6月30日)

(単位：百万円、%)

	売上高	営業利益	経常利益	中間純利益
前回発表予想(A) (平成20年5月8日発表)	510,000	24,000	16,000	8,500
今回修正(B)	510,788	24,626	18,047	11,730
増減額(B) - (A)	788	626	2,047	3,230
増減率	0.2%	2.6%	12.8%	38.0%
前期(平成19年12月中間期)実績	485,127	34,956	27,082	15,070

2. 平成20年12月期個別中間業績予想の修正(平成20年1月1日～平成20年6月30日)

(単位：百万円、%)

	売上高	営業利益	経常利益	中間純利益
前回発表予想(A) (平成20年5月8日発表)	355,000	15,000	12,500	7,500
今回修正(B)	360,243	17,101	15,262	10,129
増減額(B) - (A)	5,243	2,101	2,762	2,629
増減率	1.5%	14.0%	22.1%	35.1%
前期(平成19年12月中間期)実績	336,743	21,693	20,492	10,508

3. 連結中間業績予想修正の理由(平成20年1月1日～平成20年6月30日)

主に、たな卸資産売却益の増加等により営業外収益が前回予想より改善したため経常利益が改善し、さらに特別損失、税金費用が減少したことにより、中間純利益が改善いたしました。

II. 平成 20 年 12 月期 通期業績予想の修正

平成 20 年 5 月 8 日の中間業績修正時において、通期の業績予想については新たな算出を行っておりませんでした。今回、最近の原燃料価格の高騰等、経済情勢の動向を踏まえ、新たな算出を行い平成 20 年 2 月 7 日に公表した平成 20 年 12 月期通期業績予想を修正いたします。

1. 平成 20 年 12 月期連結業績予想の修正 (平成 20 年 1 月 1 日～平成 20 年 12 月 31 日)

(単位：百万円、%)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回発表予想 (A) (平成 20 年 2 月 7 日発表)	1,110,000	79,000	63,500	35,500
今回修正予想 (B)	1,120,000	59,000	46,500	28,000
増減額 (B) - (A)	10,000	△20,000	△17,000	△7,500
増減率	0.9%	△25.3%	△26.8%	△21.1%
前期 (平成 19 年 12 月期) 実績	1,023,238	76,671	59,989	33,066

2. 平成 20 年 12 月期個別業績予想の修正 (平成 20 年 1 月 1 日～平成 20 年 12 月 31 日)

(単位：百万円、%)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回発表予想 (A) (平成 20 年 2 月 7 日発表)	765,000	47,500	38,000	19,500
今回修正予想 (B)	795,000	39,000	33,000	22,500
増減額 (B) - (A)	30,000	△8,500	△5,000	3,000
増減率	3.9%	△17.9%	△13.2%	15.4%
前期 (平成 19 年 12 月期) 実績	709,642	48,756	43,490	22,289

3. 連結業績予想修正の理由 (平成 20 年 1 月 1 日～平成 20 年 12 月 31 日)

平成 20 年 2 月 7 日発表の通期業績予想 (以下、年初予想) を、中間業績を踏まえ、下期について国内外の経済成長の鈍化、原燃料価格の高騰等、経済情勢の動向をもとに見直しを行い、通期予想を修正いたします。修正の前提となる下期の為替レートは 105 円/ドル、国産ナフサは 85,800 円/KL と想定しております。

以下、下期に関する業績の見直しの概要をご説明いたします。

売上高は、年初予想比、石油化学はオレフィン事業において原料価格高騰を受けた販売価格の上昇により増収を見込み、化学品は昭和炭酸(株)の新規連結により増収を見込みます。一方、電子・情報ではハードディスクの出荷量が年初予想ほどの伸びを示さないとの想定を置き減収を見込みます。

営業利益は、石油化学において酢酸等が原料高騰の影響を受け年初予想比での減少を見込みます。電子・情報は、円高に加え、ハードディスクについて主にデスクトップPC向け出荷が年初想定に届かないことを見込みます。アルミニウム他は、卸電力事業の燃料高騰の影響に加え、主に自動車、建築向け、アルミ缶分野が小幅ながら需要低迷の影響を受ける見込みです。化学品は小幅に増益、無機は年初予想どおりの進捗を見込みます。

経常利益、当期純利益は、営業利益の修正により低下を見込みます。

(ご参考)平成 20 年 12 月期通期業績予想 セグメント別売上高、営業利益(連結)

(単位:億円)

		通期業績			前年実績 (H19.1~H19.12)
		年初予想 (H20.1~H20.12) H20.2.7 発表	今回予想 (H20.1~H20.12) H20.8.7 発表	増 減	
石油化学	売上高	4,200	4,700	500	3,951
	営業利益	150	130	△20	196
化学品	売上高	850	950	100	847
	営業利益	75	80	5	74
電子・情報	売上高	2,650	2,150	△500	2,010
	営業利益	330	200	△130	258
無機	売上高	850	900	50	846
	営業利益	210	210	0	209
アルミニウム 他	売上高	2,550	2,500	△50	2,578
	営業利益	85	35	△50	80
共通・本部	売上高	—	—	—	—
	営業利益	△60	△65	△5	△51
計	売上高	11,100	11,200	100	10,232
	営業利益	790	590	△200	767

注. 上記予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報及び将来の業績に影響を与える不確実な要因に係る本資料発表日における仮定を前提としております。

以上